

花高同窓会会報



第118号

発行 令和1年11月20日

秋田県立花輪高等学校
同窓会事務局

〒018-5201 鹿角市花輪字明堂長根12
TEL0186-23-2126 FAX0186-23-2137
URL <http://www.ink.or.jp/~hanakoudousou/>

印刷 (株)成文社



会長挨拶



同窓会長 関 厚 (高24期)

母校の歴史を踏まえ、さらなる発展を願って

1 新会長として

日頃より花輪高等学校同窓会及び花輪高等学校へのご支援、ご協力をいただき感謝申し上げます。このたび会長に就任した昭和47年卒業の関厚です。仕事で全国の山や森を歩いてきたものですが、50年前の生物クラブの八幡平研修が縁で、森林生態学を専攻し林野庁などの仕事をしてきました。この間、多くの花高生に助けられてきました。ある全国組織に参加したとき、幹部が先輩とわかり、「高校以来ですな」と大笑いになったこともありました。

2 同窓会の活動方針

本校は大正15年(一九二六)の創立以来、数々の実績を挙げ躍進を続け一万八六三八名の同窓会員がいます。同窓会は会員として会員相互の親睦と研鑽を図り、母校の発展に寄与するもので井上前会長をはじめ同窓生のご尽力、花輪高校関係各位のご協力により様々な活動をしており、その伝統を引き継いでいく所存です。

3 統合高校への対応

喫緊は統合校への対応です。

本年6月、県より「鹿角小坂地区の三高校を統合、統合校は花輪高校の校舎を活用。普通科と産業系学科で1学年6学級規模。開校時期は年内の基本構想の骨子案」と発表されており、今後、特色ある高校となるよう、花輪高校の歴史と伝統も生かされつつ、地域の活性化に貢献できる学校となるよう、同窓会として会員、花輪高校、鹿角市、地域の皆さんと連携をして、お願いしていくこととしております。

4 同窓会の具体的活動

本年2月、全国高校スキー大会で100分の1秒まで同タイムの女子リレーの準優勝、女子総合優勝二連覇に立ち会えました。部活動の活躍は学校に活力をもたらし、卒業生にも喜びを与えてくれます。同窓会も本校の文武両道で更なる躍進を期待し、会員各位のご支援をいただき後援を行っております。このためにホームページやフェイスブックの充実をはかり、会員、花輪会をはじめ同窓会支部との連携をすすめて参ります。

同窓会各位、関係者のみなさまの更なるご支援とご協力をお願いいたします。

校長挨拶



着任のあいさつ

四月に着任しました、阿部聡と申します。文武両面で大活躍する卒業生を多数輩出する伝統校に新米が勤務することで、周囲の不安と戸惑いをよそに、大変光栄なことに幸せを実感し胸躍る毎日を送っております。誠心誠意努めて参りますので、よろしくお願ひします。

鹿角地区に初めて勤務し、花輪高校生への先入観もない私が抱いた第一印象は、実に素朴かつ素直で、礼儀正しい青年達だということでした。街中で見かける姿も爽やかでこれまでの育てられ方を見た思ひです。やや大人しい面はあるかもしれませんが、しかしそれが全ての可能性への土台だと思ひます。

また、肌寒い三月末、不動産屋さん案内されて来て目に飛び込んだ堂々たる校舎が印象的でした。花輪スキー場を背景に朱鷺色でお洒落な雰囲気、ここでの生活に武者震いを覚えました。

さて、創立93年目を迎え時代の変化とともに社会からの要請も同時に変化し、それに対応したアクティブ・ラーニング型授

校長 阿部 聡

業や探究的な学習の実践を核とし、多様な進路希望に添えるよう、生徒・教職員とも日々の教育活動に邁進しています。また、文武両道の成果の一つに、陸上競技部の女子ハンマー投げでインターハイ3位、実業部が全国ワープ口競技大会へ4年連続出場も活躍もしています。

そして、鹿角小坂地区統合校が本校を活用し開校します。益々県民から愛し信頼される学校にするため、生徒・教職員が力を合わせ精進して参りますので、皆様の温かいご支援とご協力をお願いいたします。

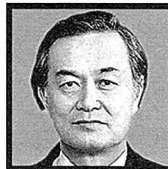
：略歴：
横手市出身。二〇一六年秋田北鷹高校教頭、18年総合教育センター主幹。早大卒。

令和二年度

総会開催のご案内

日時：令和2年5月9日(土)
18:00～
場所：鹿角パークホテル
会費：4千円
申込：0186-23-2126

直木賞作家
阿部牧郎さん
を偲んで



直木賞作家阿部牧郎さんが去る5月11日、大阪で亡くなられた。享年85歳。

阿部さんは昭和8年（一九三三年）、八幡平出身の父の下、京都市に生れるが、戦争の激化により鹿角へ疎開し昭和27年3月、花輪高等学校を卒業した。生徒会室のファイルに「阿部牧郎 文化祭につき鍋釜を借用する」の書が残る。京都大学文学部フランス文学科卒業後、会社に就職しながら小説を書きはじめ7回、直木賞候補になる。昭和62年（一九八七年）、『それぞれの終章』で第98回直木賞受賞。翌63年3月、鹿角市初の市民栄誉賞を受賞した。苦難の時代には官能小説家としての作品も残る。

野球部OBで県北大大会、県大会での母校の活躍を大阪よりウオッチングし激励していた。『焦土の野球連盟』など秀作があり戊辰戦争の鹿角を書いた『静かなる凱旋』がある。50代になってから正規のレッスンによりオーボエ演奏を習得し鹿角でコンサートをひらいた。花輪高校の同級生との交流は晩年まで続いていた。

合掌

会員寄稿

人との出会いが人生を変える

(株)西村林業代表取締役 西村 公一 (高45期)

出会いによって人生が変わる。そんな奇跡が今に繋がっていると感じ、私も誰かを支えることができる人になりたいと思っています。

思わぬ道が開けたり、あと一步を踏み出せたり、つらい時の救いとなったり、私は幸運にも素敵な出会いに恵まれて多くを学び支えられてきました。

現在、森を育てる「林業」を生業としています。そして二〇一九年十一月、小水力発電所が完成します。成熟期を迎えた木の伐採のみ行うのではなく、そこへまた植林し山を育て、資源を循環させる持続可能な森林経営を目指しているからです。適正に管理された森林は、木材、食料、燃料、飼料やシエルト等の重要な生態系サービスを提供するとともに、土壌や水の保全、きれいな空気などに貢献し、土地の劣化を防ぎ、自然災害のリスクを減少させます。生命に対する森林の極めて重要な貢献にも関わらず、多くの地域で持続可能でない行為による森林減少や森林劣化が進んでおり、もはや看過すること



小水力発電所の工事現場に立つ西村社長。「川の水が澄んでいると流量が安定し、効率的に発電できる」と話す一鹿角市花輪字近江谷地

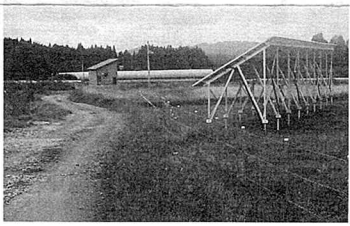
↑発電所建設の記事 (秋田さきがけ新報 2018.11.9)

はできません。「何とかしなければならぬ。いま自分が出ることに取り組もう」。このビジョンに賛同くださる方々のご協力を得ながら、豊かな森構想が生まれました。森林整備だけでなく、潤った豊かな山から流れる水のエネルギーを利用して水車を回し、発電機を回転させ、水力エネルギーから電気エネルギーとして取り出す水力発電は、持続可能な開発であり、森づくりの大切さを伝える一つの方法になると

考えました。

小水力発電は環境負荷が低く、CO₂排出量が最も少ない地球温暖化防止にも繋がるクリーンエネルギーであり、昼夜を問わず一定量の電源を安定的に供給できるベースロード電源です。そこから生み出される収益を新たな森林管理の原資にも利用し、生物多様性、経済的、社会的、環境的、文化的な便益を現在及び将来世代の人々に提供する事が目的です。

人との出会いがこのように私の人生や考えを変えてまいりましたが、今後も一歩ずつ確実に前進してまいります。(大湯在住)



←太陽光発電施設

水力発電所→
上流側には
取水施設あり

— 常任幹事 吉村 アイ (高19期) —



～七十年寄り～

スマホ、キヤッシュレス、ブログ、メール等々先端技術を駆使し若々しく活動する高齢者も存在する中、私はこれで良いとアナログにこだわっています。他の同年代との狭間にあつて時々このままでいいのかなと不安になる今日この頃です。

平成から令和の時代に移り、昭和生まれの私達19期は70歳を超えたのです。昭和の時代は七十としより(年寄り)と言われていた事を思うと、感慨深いものがあります。最近よく耳にする二〇二五年問題、世に言う団塊世代の私達は後期高齢者を目前にして、令和の時

教職五十年の回想

恩師寄稿

安田 貞則 先生

昭和38年4月〜47年3月在職



生徒会誌青
垣山とアルバ
ムを開いて見
ると五十年の

歲月が当時の生徒の姿と共に鮮やかに蘇って来る。

花輪高校に赴任したのは昭和38年4月であった。山々にまだ残雪のある三月末、初めて花輪の地を訪れた。新米教師としての緊張感と今後の教師生活への

会員寄稿

ストーンサークル縄文祭への想い



大湯環状列石いわゆる大湯ストーンサークルは、国の特別史跡として昭和31年に指定された。長野の尖石遺跡に次いで二番目。遺跡は、大湯の浅井小魚さんたちが中通りの耕地整理中に発見。ストーンサークルとしては日本最大。この遺跡のすばらしさを地域の方々によく知ってもらおうということと十和田商工会青年部長の時に始めたのが「古代焼き大会」現在の「ストーンサークル縄文祭」。石の上に

不安を感じながらの着任であった。鹿角の人々の人情あふれる親近感と純粋で素直な生徒達に支えられて、いつしか忘れ得ぬ第二のふるさととして、青春時代を過ぎたのが花輪の地であった。下宿を訪ねて来る生徒達と語り合うのも楽しい時間であった。来ると決まってるリングを持ってきてくれた。手取り一万四千円の給料で、六千五百円の下宿代を差し引くと月々の生活そのものは厳しいものであった。しかし、若さあふれる同僚と過ぎた休日のことには忘れられない。十和田・八甲田・八幡平、岩手山・早池峰山などすばらしい自然に触れることで心

も3年の覚悟が、今年で37回目。その手段として、縄文人と同じ粘土で土器を作ろうと近くの粘土を掘り始めた。最大で千六百個の土器が集まったことも。一晩かけて土器を焼き、万座遺跡の横で夜空の星を眺めながら縄文の人々に思いを巡らし、歴史の流れを感じた。火熾しや弓矢の的の当てる、勾玉作りなどのイベントも。当初からのメンバー3人、後輩富谷秀之君(高28期)、現在の実行委員に熱烈な同級

常任幹事 勝 又 幹 雄 (高19期)

豊かな生活となった。花輪に来たらスキーをやらないといけないというので、浅利忠先生に否応無く柳沢運動具店に連れていかれ、スキーを選んでもらった。生まれてはじめての初滑りが、生徒からの指導で、花輪小学校の坂であった。先生、ツイストの要領だと言われても、そのツイストが出来ないので教えずに笑われた。スキーの授業でクラスのことどもたちと一緒に過したり、スキーの国体、インターハイ等にも駆り出され、ジャンプ競技のアナウンスをさせられ四苦八苦したこともある。教職を全う出来たのは、人情あふれる花輪の人たちや生徒に

鹿角の 統合校の 設置場所は 花輪高校に！



支えられたからと感謝の念でいっぱいである。幼少の頃から遊びの場であり生活の場であった八郎潟への思いをまとめて平成27年に出版、本年には教職生涯の記録を刊行し、どちらも花輪図書館に寄贈させていただいた。

(八郎潟在住)

新聞によりますと、秋田県教育委員会は、六月十四日、鹿角三高校の統合校の設置場所を現在の花輪高校の敷地と校舎を活用すると発表しました。これは、活力に満ちた魅力あふれる学校づくり、鹿角地区の生徒の教育環境の充実、統合の早期実現などの観点からそのように決定したとのこと。統合校の学科や規模、教育課程、必要な施設整備などの基本構想は今年度末をめどに策定されるようです。また、統合のために増改築の検討が必要なことや、統合により通学の負担が大きくなる生徒に対する支援についても検討される見通しです。(事務局)

生縄文ビーナス加藤照子さん(高19期)。万座遺跡の大きさ、野中堂の日時計状組石。なぜ碧い石(石英閃緑ひん岩)が使われたのか、五本柱の意味など疑問は尽きない。世界遺産登録の話は22年前若杉国体の後。正式に候補に挙がって7年が経過、ようやく国内候補に。正式な認定は二年後か。長すぎたというよりは、その後どうするのか、地域活性化にどう繋げられるのかが大きな課題。古の空間のためには



(毛馬内在住)

同窓会 ゴルフコンペ



9月30日大館カントリークラブにおいて15名参加の下、第7回同窓会ゴルフコンペが開催されました。当日は天気にも恵まれ、熱い戦いが繰り広げられ、高19期の佐藤隆夫さんが優勝しました。懇親会は茅茹荘で開かれ、お互いの健闘や珍プレーに大変盛り上がりしました。副会長 小田 修(高20期)

会長退任挨拶

前会長 井上 高廣 (高18期)

副会長を1期2年、会長を4期8年、計10年同窓会活動に携わりました。その間、一緒に活動をしてくださった役員の方々、各支部をはじめ全国の同窓生の皆様、母校の歴代校長先生、同窓会担当の先生や多くの先生方にお世話になりました。心より感謝を申し上げます。

在任期間を振り返ってみると、副会長に就いた2年目活性化5ヶ年計画を作り改革を目指しました。人が集まり活気のある同窓会にして、会費が増え母校への支援が十分できる同窓

平成30年度 同窓会決算書

収入総額 2,329,758円
支出総額 1,866,109円
差引残額 463,649円

令和元年度 同窓会予算書

収入総額 1,901,000円
支出総額 1,901,000円
差引残額 0円

【収入の部】

(単位:円)

Table with 5 columns: 項目, 予算額(A), 決算額(B), 増減(A-B), 令和元年度予算額. Rows include 1. 会費, 2. 繰越金, 3. 繰入金, 4. 諸収入, and a total row.

【支出の部】

(単位:円)

Table with 5 columns: 項目, 予算額(A), 決算額(B), 増減(A-B), 令和元年度予算額. Rows include 1. 会議費, 2. 会務費, 3. 事業費, 4. 渉外費, 5. 助成費, 6. 備品費, 7. 積立金, 8. 繰出金, 9. 雑費, 10. 予備費, and a total row.

会にしたいと考えました。そのために組織作り、広報活動(同窓会報、ホームページ、フェイスブック等)に力を入れました。総会の出席者を増やすための連絡網など改革しましたが、考えていた半分ほどしか改善できなかったのが心残りです。

鹿角地区の3高校の統合について、同窓会の役員会で何度も意見を交換しました。かつて生徒数が多く鹿角地区の高校に活気があったころには鹿角地区の生徒が他地区の高校へ進学するのは10%に満たなかったのですが、今年度の生徒は約26%の生徒が鹿角以外の高校に進学しています。このままの割合で生徒たちが他地区の高

校に進学すると10年後には同校の生徒は1学年3クラス規模の学校になってしまいます。人数が少ないのは学校運営に多大な影響を及ぼします。統合校がハード面でもソフト面でも魅力があり他地域からも入学希望者がたくさん来るような学校になってほしいものです。

同期生の皆さんに一言お礼を申し上げます。私たち18期生が、同窓会費の納入者数において常に最も多かったということですが、一度も頼んだことはありませんでしたが、同期生が会長だということに陰ながら支えてくださったことに心より感謝いたします。

令和元年度 総会盛大に開催!!

令和元年度総会が、5月11日(土)午後6時から鹿角パークホテル鳳凰殿で開催されました。例年午後5時からの開催でしたが、今年は少しでも参加しやすいようにと、1時間繰り下げて6時からの開催となりました。

参加者は31名で、母校からは阿部聡校長、佐藤貢教頭、工藤久人事務長の各氏が出席してくださいました。

井上会長の挨拶に引き続き、議事に移り、平成30年度の事業報告、決算報告、会計監査報告、令和元年度事業計画、予算が承認されました。今年役員改選の年にあたり、関厚会長以下新役員が選出されました。

講演会では、毛馬内にあるジョイタム株式会社代表取締役の田村功さん(高26期)が、ラピラス電機鹿角工場閉鎖からジョイタムの創業、そして現在までを話してくださいました。聞いていて心がわくわくする内容で、会場の皆さんも話に引きつけられていました。今だから笑って話せることも、創業当時は言葉にできないほどの苦労をされたようです。

つづく懇親会では、校長先生

総会選出役員

Table listing board members: 顧問 (石井 トシ), 副会長 (関 栄市郎), 会長 (阿部 洋一), 副会長 (井上 高廣), 会計監査 (田中 政幸).

顧問であった村山正さん(高3期)が8月25日逝去。ご冥福を祈ります。

編集後記
総会案内は今回が最終となります。皆様のお申込みをお待ちしております。